

路上生活者に支えられたライフサポートの活動

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

「何人も社会において孤立せず、健康で文化的な最低限度の生活を営むことのできる社会の実現を目指して、路上生活者や生活困窮者の自立支援に寄与する」この活動目標を掲げて、やまなしライフサポートはリーマンショックによる大不況の2009年、ボランティアの有志たちによりカトリック甲府教会から歩み始めました。

同年、厚生労働省は毎年全国の市町村が目視によって調査しているホームレスの人数を、全国15,759人、山梨県内38人と発表しました。気になったのはその数の多さではなく、「路上生活者」ではなくカタカナで「ホームレス」と表現し、「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者」と、冷たく断言しているところでした。

ボランティアの方々の熱意により充実してきた美味しい「炊き出し」を、一人でも多くの方に召し上がってもらうために、チラシを配布してお誘いをするが必要になってきました。チラシをもって駅、公園、甲府市内外の橋の下を訪問する「見守りパトロール」を開始しました。しかし、目立たない所に人目を避けて暮らしている方に近づき、どのようにして人間的な繋がりを持つことが出来るのでしょうか。大学で生まれて初めて、英国人教師から英語だけで授業を受けた時の不安と緊張が脳裏をよぎりました。「会話とはただしゃべることではない。聞き手に喜びを与えることです」

金川原の大きな橋の下で、鍵のついた小屋で悠然と暮らしていた K さんが私の最初の訪問者でした。他人を寄せ付けない威厳のある雰囲気を感じていたので、最初の日は言葉を交わすこともできずに、ただ弁当とチラシだけを置いて帰ってきました。それでも毎週木曜日には炊き出し弁当を届け続けました。温かい食事を受け取ってもらい、少しずつ会話はできるようになりましたが、名前を覚えてもらうまでに

2年かかりました。無料低額診療事業を使って病院での検診を勧めたり、生活保護申請も話してみましたが頑強に拒否されました。

ある時、K さんの小屋の前にあるベンチで、新しい路上生活者、T さんに遭遇しました。彼は県内の土建会社で働いていましたが、会社が倒産し職を失い、離婚により家庭も崩壊しました。東京に出稼ぎに行きましたが失敗して全てを失い、生まれ故郷に歩いて帰る途中、K さんの小屋付近の橋にロープをかけ自殺を試みましたが失敗し、K さんに助けられて、隣の橋の下で暮らし始めていました。

また、K さんが住む橋の対岸に、2つの小屋とその間にソファとテーブルをおいて、応接間といえるような空間を所有しながら暮らしている、H さんというちょっと怖い感じの路上生活者とも交流を始めました。公園内の橋の下で暮らしている3人の方に炊き出し弁当を配達しながら人間的な繋がりを築くことができました。

T さんが生活保護申請を希望したので、出身の甲斐市にある橋に移動してもらい、甲斐市から保護費を受け、アパートで新生活をスタートしました。その後、路上生活者としての経験を活かしてライフサポートのスタッフとして働いてもらうようになりました。金川原の H さんも、県下の路上生活者の居場所をよく知っていることから、「見守りパトロール」の有力なスタッフとして有償ボランティアで働き始めました。両者ともライフサポートの良きパートナーとして活躍してくれました。

炊き出し開始以来10数年にわたり、毎回大鍋で味噌汁を作ってくださる84歳のKさん。定例見守りパトロールや年2回の夜間特別パトロールに必ず参加し、炊き出しや食料配布でよい働きをしてくださるNさん、快くいつもスタッフを助けてくださる K さん。ライフサポートの支援に応じて、弱者を助けるために協力を惜しまない皆さんに深く感謝しています。

2023年度の主な活動実績

2023年4月～2024年3月 人数は延べ数

食料配布、炊出し	2,437名(49回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	559泊(54名)
健康相談	2,369名(140回)	生活保護申請同行	16名(受給実績18名)
路上生活者面談	77名(73回)	就労相談	89名(就労実績13名)
生活保護・年金受給者面談	291名(157回)	見守りパトロール	154名(63回)

特集 孤独・孤立問題

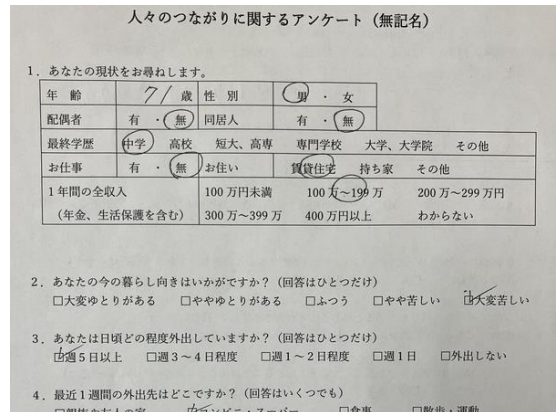
「孤独・孤立対策推進法」が2024年4月1日から施行されました。「孤独・孤立の問題は、新型コロナの影響等により一層深刻な社会問題になっていることに加え、今後、単身世帯や単身高齢世帯の増加によりさらなる深刻化が懸念される」(内閣府資料)というのがその背景です。

孤独や孤立は、孤独死や自殺等重大事案につながる問題である一方、人生のあらゆる場面で誰にでも生じうるものです。当事者や家族等が置かれる具体的な状況は多岐にわたり、孤独・孤立の感じ方・捉え方も人によって多様であるため、この問題には個々の状況に応じた多様なアプローチや手法により対応することが求められます。

生活困窮者の孤独・孤立の実態調査

やまなしライフサポートが関わり合いを持つ、生活に困窮されている方々の孤独・孤立の実態を調査し、内閣府が全国で行った調査との比較を試みました。毎週木曜日の食料配布や炊出しの利用者と、訪問支援をしている方々にアンケートへの協力をお願いしました。

アンケート調査の概要	
・実施期間	2024年4月18日～4月28日
・実施場所と回収数	食料配布会場(カトリック甲府教会): 66件 被支援者自宅: 16件 合計 82件
・アンケート内容	内閣府が令和5年12月に実施したものと同一の内容
・実施方法	ライフサポート職員による面接聞き取り



アンケート調査の結果

回答者の特徴

50歳以上、男性、単身者、無職、借家住まいの方が多いです。

最終学歴では中卒が全国平均を上回っており、年収では200万円未満の方が大半となっています。

年齢	性別	同居人	仕事	住居
30歳 -39歳	男 68 女 14	有 15 無 67	有 12 無 70	賃貸 69 持ち家 11 他 2
50歳 -59歳				
60歳 -69歳				
70歳 -79歳				
80歳以上				

50歳以上が91% (全国調査では64%)

男性が83% 単身が81% 無職が85% 賃貸が84%

数値は人数です

最終学歴

最終学歴	人数
中学	26
高校	45
高校以上	10

中卒が32% (全国平均は16%)

年収

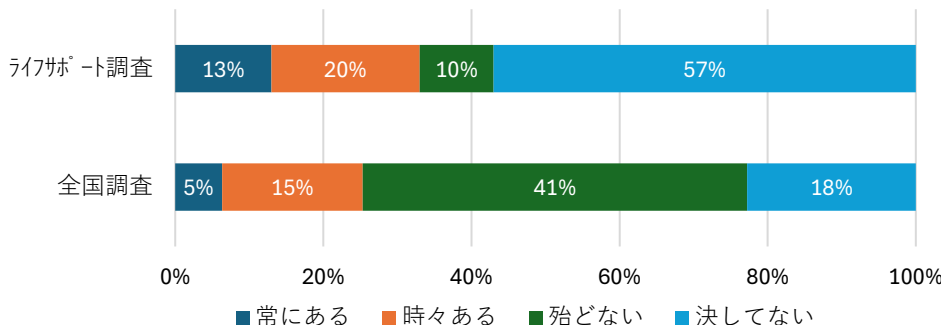
年収	人数
100万円未満	26
200万円未満	51
300万円未満	2
400万円未満	3

200万円未満が94%

アンケート集計

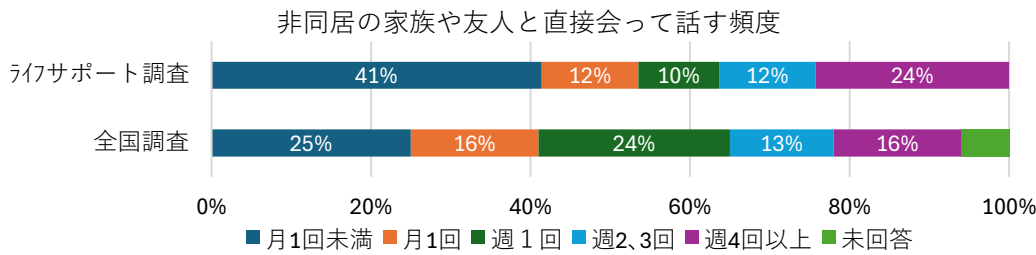
孤独感について

あなたはどの程度孤独であると感じることがありますか？



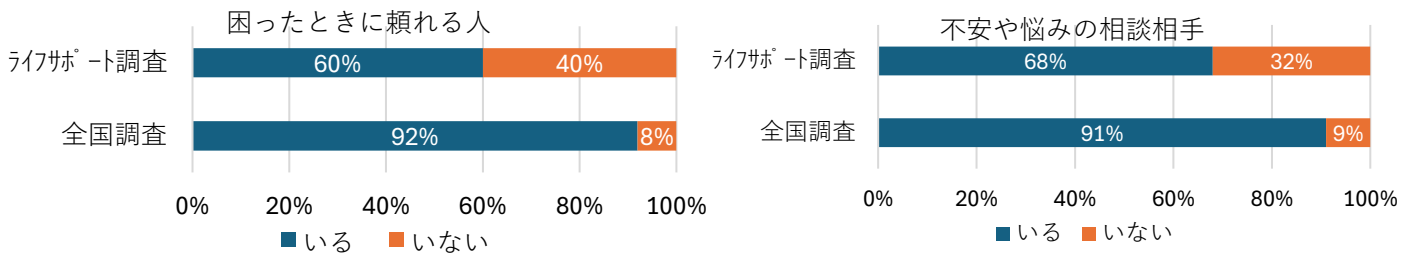
孤独と感じている人はライフサポート調査では「常にある」「時々ある」が33%で、全国の20%を上回っています。一方、「決してない」人は57%と全国調査を大きく上回っており、両極化が認められました。

家族・友人とのコミュニケーション頻度



ライフサポート調査では、月1回未満の方が多く、電話で話す人も51%の人が月に1回未満の頻度でした。

頼れる人や相談相手



ライフサポート調査では、頼れる人や相談相手のいない人の割合が全国調査よりもかなり多くなっています。

調査から見てきたこと

やまなしライフサポートが関わりをもつ方々は、高齢、単身で無職の方が多くことから、周囲の人々との付き合いや電話での会話が一般の方に比べて少ないので、孤独とを感じる方が多いと推定されます。一方、孤独と感じておられない方も多数おられました。分析では、週4日以上外出したり知人と話しをしている方、相談相手がいる方、収入は少ないながらも現在の生活に一定程度満足している方等にそのような傾向が見られました。

食料配布や炊出しを交流の場、居場所として利用者に提供し活用していただくと共に、安否確認のための定期訪問や介護サービス利用促進のための地域包括支援センターとの連携等を通じて、孤独・孤立に陥ることのないよう活動を強化してまいります。

孤独・孤立に直面した事例

事例1. 脳梗塞になった一人暮らしのAさん(60代 男性)

「うちのアパート住人で大変な人がいるから助けてくれませんか？」当法人がお世話になっている不動産会社の方からの連絡で始まりしました。体調を崩して失業し生活保護申請をしようとしているが、体が思うように動かず困っているので支援して欲しいということでした。本人の状況を確認したところ歩行も困難な様子だったので、翌日に不動産会社の方から救急車を呼んでもらい病院へ搬送されました。窮状にありながら助けを求める知人や親族のあては無く、本当に困っていたところでした。

その後何回か通院して精密検査の結果、脳梗塞が十数ヶ所あり、うち3ヶ所が重度のため歩行等の運動機能障害を来している。治療しても治癒する望みは無いとの診断が下されました。その他に高血圧も大分進んでいるので投薬治療を行うとの所見でした。

本人が希望していた生活保護申請のため市役所への同行支援を行い、受給が決定しました。施設入所という選択肢もありましたが、現在の住居で頑張りたいとの本人の希望により、地域包括支援センターへの支援要請を仲介し、介護サービス利用の支援を受けることになり要介護2が認定されました。

現在は介護サービスで、介護ベッド/入浴用椅子/介護杖の貸与、週2回のヘルパーによる食事調理や掃除、週1回の通所リハビリの提供を受けています。今後は通院が隔月であるため、県内のNPO法人が提供している低額の福祉輸送サービスを利用するよう紹介しました。たまたま第三者からの連絡によって当法人が関わり、生活保護受給、介護サービス利用までつなげることができました。本人も頼れる知人、親戚などがなかったのととても助かったと話していました。(矢崎記)

事例2. 相談相手なく自殺未遂に至ったBさん(40代 男性)

私は、真冬の富士山麓の樹海で自殺を試みました。3日目に通行人に発見され、警察に保護されましたが、重度の凍傷を負っていたため入院となりました。

退院時には足に障害が残り、今後の生活の目途が立たなかったため、やまなしライフサポートのお世話になりました。ライフ荘を利用しながら生活保護や障害者年金の申請、アパート確保等の支援を受け新しい生活をスタートさせました。

私が死にたいと思うようになったのは、それまで勤めていた会社での人間関係トラブルが原因です。精神的にも経済的にも追い詰められ、その苦しさから死んで逃れたいと思うようになりました。困りごとを相談できる友人や知人が周囲にはおらず、親は遠方に住んでおり以前から疎遠だったため相談することができませんでした。

後になってライフサポートの方から、「いのちの電話」などの悩みを聞いてもらえ、相談できる団体があることを聞きました。相談相手がおらず孤立していた当時の自分がそのような情報を知っていたら、樹海に行く前に別の道が拓けていたかもしれません。(本人談)

事例3.

一人しかいない友人に命を救われた C さん(40代 男性)

最初の出会いは甲府駅2階の広場でした。やまなしライフサポート恒例の夜間パトロールで、コンクリートの上に寝ていた C さんを発見しました。それがきっかけで毎週木曜日の食料配布を利用していただくようになり支援が始まりました。

C さんは親族が経営する会社で働いていましたが、労働環境が悪く十分な給料も払われなかったため不平を述べたところ解雇され、住居も失いました。両親や兄弟、頼れる友人はおらず、所持金もなくなり甲府駅にたどり着いた、とのことでした。

生活保護申請とアパート探しを支援し、新しい生活を始めて数カ月たった朝、高血圧の持病があった C さんは突然体調を崩しました。意識がもうろうとする中、甲府駅で路上生活していた時に知り合った M さんに電話で助けを求めました。

しかし、Mさんは仕事で助けに行くことができません。Mさんはライフサポートに電話して C さん宅訪問を要請してきました。

私が訪問したところ、玄関ドアのすぐ先で倒れている C さんを発見しました。しかし C さんは既に体が麻痺してドアの鍵を開けることができません。会話もできない状態だったので脳卒中を疑い、すぐに救急隊を要請し病院搬送してもらいました。診断は脳出血で、言語障害は改善するものの、左半身の麻痺は残るとの医師の話でした。現在は歩行訓練などのリハビリテーションに励んでいます。

脳卒中は一刻を争う病気と言われていています。救急搬送がもう少し遅れていたら命にかかわっていたことでしょう。唯一の友人のMさんに救いを求めることができたことがCさんの命を救ったと言えるでしょう。(芦沢記)

ボランティアさん募集

炊出しのボランティアを募集しています。調理、配食、片付けをお願いしています。毎月第1木曜日、14時から17時。ご都合の良い一部時間帯でも結構です。

マスク、三角巾、エプロンをご用意いただき、13時50分にご集合をお願いします。

場所: 甲府市中央2丁目7-10 カトリック甲府教会(駐車場あり)

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら甲府市周辺であれば当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いします。

(家電製品は製造後10年以内の物をお願いします)

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

寄付金も募っています

貴い寄付金が食料や衣類となって困窮されている人を支えます。

お振込みの前に、電話かメールでその旨お伝えいただくと幸いです。

振込先

山梨中央銀行 南支店 普通預金 865629

名義人 特定非営利活動法人やまなしライフサポート 理事 中山八十司

(トクヒ.ヤマナシライフサポート)

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権あり)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。